



第二回

こがねい

春の能

令和二年

四月二十五日(土)

午後五時開演 (午後四時開場)

会場 小金井宮地楽器ホール

JR中央線 武蔵小金井駅南口徒歩一分



能
田村

替装束

川口
晃平

狂言

附子

山本 則秀
山本 泰太郎
山本 則重

仕舞

老松

富士太鼓

梅若 紀彰

津村禮次郎

[チケット 令和2年1月15日発売]

e+(イープラス) <http://eplus.jp>

指定S席 5000円 指定A席 4500円
自由B席 3500円 学生席※ 2000円

(※当日受付にて学生証を拜見いたします。)

[お問い合わせ]

こがねい春の能実行委員会

tel : 070-6422-1532

e-mail : harunonoh@gmail.com

[事前講座]

能「田村」の見どころ等をお話いたします。

日時：令和2年 4月3日金曜日午後7時より

会場：宮地楽器ホール小ホール

予約：実行委員会までご予約ください

費用：1000円(チケットをお持ちの方は無料)

主催 こがねい春の能実行委員会 後援 小金井市

令和二年 四月二十五日(土)午後5時開演

会場 小金井宮地楽器ホール

番組

解説 川口 晃平

仕舞 老松

富士太鼓 梅若 紀彰

狂言 附子 太郎冠者 山本 則重
主人 山本泰太郎
次郎冠者 山本 則秀

(休憩 十五分)

能田村 童子 川口 晃平
替装束 門前の者 山本 則秀
旗僧 御厨 誠吾

笛 一噌 隆之
小鼓 鶺鴒洋太郎
大鼓 大倉慶乃助

後見 津村禮次郎

地頭 梅若 実
地謡 梅若 紀彰
山崎 正道

小田切康陽
角当 直隆
小田切亮磨

(午後七時半頃終演予定)

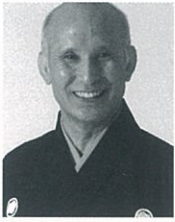
こがねい春の能 川口晃平

武蔵小金井は歌川広重の「富士三十六景」にも玉川上水の桜が描かれるなど、江戸の昔より景勝の地でした。また、小金井の名の通り、多摩川段丘のはげの下より湧く豊富な地下水は、遠く縄文時代より人々の暮らしを潤してきました。
私はこの小金井に生まれ育ち、時代が流れても変わらないものがあることを教わり、その何かに惹かれるような人間になった気がいたします。そして私が大学時代に出会い一生の仕事と決めた能は、正に古代から未来まで変わらずぬ人の心、自然や神々の世界を題材にして、遙かな年月受け継がれてきた伝統芸能です。

水清く花咲く小金井の春ごとに、能を一番ずつ大切に演じていければと、「こがねい春の能」を立ち上げました。
当日は人間国宝・四世梅若実先生、また、小金井にお住まいの能楽の第一人者津村禮次郎先生にお力添えをいただき舞台を動めさせて頂いていただきます。
演能に先立ちまして、初心者の方にも分かりやすく楽しんでいただけますよう、解説をいたします。

能「田村」 あらすじ

桜の頃、東国の僧が都に上り清水寺を訪れます。現れた箒を持った少年に聞けば、地主権現に仕える者であると答えます。清水寺の来歴を尋ねる僧に、少年は坂上田村丸(麻呂)が建立した観音霊場である謂れを語りました。また問われるまま、少年が近隣の名所を挙げるうちに日は暮れ、月に花に照り映える春の宵をむかえます。二人は「春宵一刻值千金」の詩文を共に口ずさみ、清水寺の桜を楽しみます。少年は折からの景色を讚えながら舞い、田村丸ゆかりの田村堂の内に消えていきました。
残された僧の前に門前の者が現れ、清水寺の縁起を語り、少年は田村丸の化身だろうと述べ、回向を勧めます。夜半、僧が法華経を誦読していると、武者姿の田村丸の霊が現れます。田村丸はかつて、軍勢を率いて観音に参り、願をかけたことを語ります。その後、見事に賊を討ち果たした有様を見せて、これも観音の仏力によるものだとして述べて、物語を終えます。
替装束の小書は常とは前後の装束が変わり、古代の大將軍田村麿の姿を造型し、緩急のついたより華やかな演出になります。



津村禮次郎 シテ方観世流能楽師。緑泉会代表。重要無形文化財(能楽総合)保持者。昭和十七年北九州市生まれ。一橋大学在学中に女流能楽師の草分け津村紀三子に師事。その後先代観世喜之に師事。定例公演「緑泉会例会」の他、小金井新能は今年四十回を迎え、佐渡での活動も三十数年継続。古典能、ダンスや演劇などのコラボレーション、創作活動、海外公演も多数行。著作に「能がわかる1000のキーワード」「能狂言図典」(一部執筆)、写真集「舞幻」。

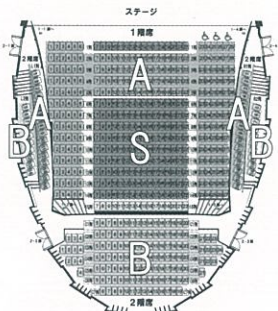
四世梅若 実 シテ方観世流梅若六郎家当主。日本藝術院会員。重要無形文化財各個認定保持者(人間国宝)。昭和二十三年五月五世梅若六郎の嫡男として生まれる。曾祖父は明治三名人の一人、初世梅若実。数々の秘曲、および能楽の最高峰三老女を数回演じる。海外公演も多数主催し、世界への能の普及と国際文化交流につとめる。復曲や新作能の演出と上演、異分野とのコラボレーションにも携わり、「平成能」と呼べるものを創造し今日を生きる古典芸術としての能を支えている。

川口 晃平 シテ方観世流能楽師。梅若会所所属。小金井市出身。昭和五十一年生まれ。漫画家かわぐちかいじの長男。慶應義塾大学在学中に能に魅せられ能の道志す。大学卒業後の平成十三年、五十六世梅若六郎(現・四世梅若実)に入門、復曲能「降魔」にて初舞台。平成十九年独立。今までに「翁」「千歳」「石橋」「狸々乱」「道成寺」「望月」を披く。緑龍会、三人の会を主催。

お問い合わせ
こがねい春の能実行委員会
070-6422-1532
harunonoh@gmail.com



[チケット 平成31年1月15日発売]
e+ (イープラス) http://eplus.jp
1階 指定S席 5000円
1階2階 指定A席 4500円
2階 自由B席 3500円
学生席※ 2000円
※当日受付にて学生証を拝見いたします。



小金井 宮地楽器ホール
東京都小金井市本町6の14の45